

東のみち北山など訓す古事記に東道とあるは今之東山道なり。按るに崇神御時四道將軍を遣されしころは國おほくひらけず東道といふは近江、美濃、信濃接るに此信濃本領飯山領のあたりなるべし。上野等の高き所のみひらけて白冰峠より末はいまだ道通せずそれより後國次第にひらけて東山道、近江、美濃、飛驒、信濃、上野、下野、秩父、甲斐となる。續紀光仁寶龜二年、秩父甲斐を東海道へ屬し、陸奥出羽を加ふ。○下略

〔日本書紀景行〕五十五年二月壬辰以彥狹島王拜東山道十五國都督

〔續日本紀一武〕四年二月壬寅遣巡察使于東山道檢察非違

〔續日本紀十二武〕天平九年四月戊午遣陸奥持節大使從三位藤原朝臣麻呂等言以去二月十九日到陸奥多賀柵與鎮守將軍從四位上大野朝臣東人共平章且追常陸、上總、下總、武藏、上野、下野等六國騎兵總一千人開山海兩道夷狄等咸懷疑懼仍差田夷遠田郡領外從七位上遠田君雄人遣海道差歸服狄和我君計安壘遣山道並以使旨慰喻鎮撫之。○下略

〔日本後紀嵯峨二十〕弘仁二年四月乙酉廢陸奧國海道十驛更於通常陸道置長有高野二驛爲告機急也

〔吾妻鏡〕文治六年正月八日癸亥依奧州叛逆事被分遣軍兵海道大將軍千葉介常胤山道比企藤四郎能員也而東海道岩崎輩雖不相待常胤可進先登之由申請之間神妙之言被仰下仍彼輩者雖爲奧州住人不存貳歟各無隔心相具之可遂合戰之趣今日付飛脚被仰遣奧州守護御家人等許云云

北陸道

〔釋日本紀十七〕北陸ノクヌガ

〔倭訓栞前編八〕くぬがのみち

日本紀に北陸をよみ北山抄には北陸道をくにがのみちと訓せ